

館長報告

令和7年3月市議会定例会  
一般質問（公民館関連）抜粋

**1 会期**

令和7年2月21日（金）～3月27日（木）

**2 一般質問公民館関係議案**

質問者 3人（3件）

※質問及び答弁内容（抜粋）は、次ページ以降参照

小平市中央公民館

**【質問内容 1】 市議会公明党 高橋 政美**

**健康で楽しい老後を過ごすために**

総務省統計局によると、日本の総人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合（高齢化率）は、令和 5（2023）年 10 月 1 日現在、29.1%と 3 割に迫り、小平市は令和 5（2023）年 4 月 1 日現在、196,543 人に対し、高齢者人口は 46,367 人、高齢化率は 23.6%となっています。我が市議会公明党では長年にわたり、市民の健康寿命延伸はもとより、国保給付費の軽減策として、e スポーツの活用や全世代で楽しめるニュースポーツの普及など、様々な対策を提案してきました。誰もが楽しく続けられるフレイル予防について、更なる対策が必要と考え以下質問します。

1. 高齢者の間では、囲碁・将棋のようなボードゲームの中で、健康マージャンの人気は高く、市内の多くの公民館でサークル活動が行われています。健康マージャンは人とのふれあいや脳の活性化に効果が期待できると言われています。健康マージャンがフレイル予防効果に資することを高齢クラブ連合会や高齢者施設、地域包括支援センター等に広く周知するとともに、ほのぼの館や地域センター、公民館等にマージャンテーブルやマージャンパイなどの備品を整備することで、気軽に健康マージャンを楽しめる環境づくりをすべきと考えますが、いかがでしょうか。

**市長答弁**

1. 健康マージャンを含むボードゲーム全般につきましては、脳を活性化する効果があることを、認知症の予防講座や出張介護予防教室などで周知しております。

気軽に楽しめる環境づくりでございますが、現在、さわやか館にマージャンパイとマージャンテーブルを備品として整備しております。ほのぼの館や地域センター、公民館等につきましては、利用団体が所有する道具をお持ち込みいただいておりますが、新規の団体登録があった場合など、利用が増えた際には整備を検討してまいります。

**【質問内容 2】 日本共産党小平市議団 細谷 正**

**小川駅西口の再開発と新複合施設で変わる諸課題について**

小川駅西口地区市街地再開事業は、市民はもとより他市から小川駅を利用する方にとっても関心の高い事業です。昨今の物価上昇や人手不足は、小川駅西口地区市街地再開のスケジュールへの今後の影響も懸念されます。小川駅西口周辺の街並みも変わるため、市民の方から夜間の照明不足など課題を伺っています

また、昨年12月定例会で小平市小川駅西口複合施設条例の可決後、施行規則の作成と事業者公募選定に関わるスケジュールについても市民の関心は高くなっています。さらに、小平元気村おがわ東事務棟及び屋内広場について解体を行う方向で検討することとしています。同施設で活動する団体の移転先候補としては、小川西町地域センター小川西町仲宿地域センター、小川東町地域センターとなるとしています。市民の方からは移転先は決まったことなのかとの疑問が出されています。そこで、小川駅西口地区市街地再開事業の進捗と新複合施設で変わることはなにか、小平元気村おがわ東の解体を見直すことを求めて、以下質問いたします。

**1. 小平市小川駅西口複合施設条例について**

- ①小平市小川駅西口複合施設条例施行規則を定めるとしているが具体的スケジュールは
- ②施行規則を定めるに当たり、小川西町公民館定期利用・一般利用団体、公民館運営審議会、市民活動支援センター“あすぴあ”や男女参画センター“ひらく”の利用者等、広く市民に意見を聞くべきと考えるが見解を伺う

**市長答弁**

1. 一つ目の 小川駅西口複合施設条例施行規則のスケジュールでございますが、市といたしましては、施設の開設までに規則が制定できるよう、適切に対応してまいります。

二つ目の 施行規則を定めるに当たっての対応 でございますが、これまでも、移転をする各施設の利用者の方々との意見交換の場などを設けてまいりました。これからも、規則に限らず、必要な事項につきましては、機会を捉えてご意見を伺ってまいります。

### 【質問内容 3】 日本共産党小平市議団 三輪 博美

#### 今後の公民館の在り方について問う

小平市にある公民館は現在 11 館あり、三多摩地域では、一番多く地域に配置されています。他の公共施設との複合化に伴い、減少してしまうことについて、市民の方からも、不安の声が寄せられています。いつでも、だれでも気軽に利用できることや、社会教育の場としての公民館は、市民の皆さんにとっても大切なコミュニケーションの場でもあり、学習の場でもあります。小平第十一小学校等の複合化により、花小金井北公民館がなくなってしまう予定ですが、今まで、花小金井北公民館を利用されている方からは「地域の居場所がなくなり困る」という声もあります。また、第 2 期経営方針推進プログラム（素案）の中には、「使用料・手数料の定期的な見直しに係る考え方の整理」と記載されていますが、現在、物価高騰の影響により、市民生活が苦しい状況の中で、今まで使用料を免除されていた団体が、今後徴収されることは、市民の社会活動を阻害し、大切な学習する機会を失いかねないこと、地域コミュニティの場が減ってしまうことを懸念し、以下質問します。

- 第 1 点目 公民館の定期利用・一般利用団体の推移、コロナ禍前後（2019 年と 2023 年）の比較、特徴について伺います。
- 第 2 点目 地域の居場所として「花小金井北公民館をなくさないでほしい」という声や花小金井地域は人口増加エリアですが、地域活動の拠点が少ないと感じる方もいます。歩いて行ける距離に、地域コミュニティの場が必要と考えますが、市の見解を伺います。
- 第 3 点目 厚生労働省の最新の「2023 年国民生活基礎調査の概況」で生活意識が「苦しい」とした世帯は 59.6%と、前年の 51.3%から 8.3 ポイント上昇しており、市民生活の苦しい状況が続いています。先行き不透明な社会情勢の中、今後も活発な市民の社会活動を引き続き行っていくためにも、公民館を利用している社会教育関係団体等の施設使用料の免除を維持するべきだと考えますが、市の見解を伺います。
- 第 4 点目 公民館は社会教育法で定められた施設です。小平市の文化や行政を支える役割も担ってきました。今後の公民館の在り方について、公民館の機能を失いかねないなど、いわゆる「貸し部屋」となってしまうのではないかという声もあります。公民館活動が形骸化する恐れがあると懸念しますが、市の見解を伺います。
- 第 5 点目 今後予定されている中央エリアの複合化に伴い「現在ある中央公民館の役割や目的が変更されないか」「サークル活動が維持できなくなるのではないか」等、心配の声もありますが、市の見解を伺います。

#### 教育長答弁

1. 第 1 点目の公民館利用団体のコロナ禍前後の比較でございますが、定期利用団体の令和元年度登録数は 4 6 6 団体、昨年度登録数は 4 0 8 団体で、令和元年度と比較すると 5 8 団体の減となっております。一般団体の令和元年度登録数は 2, 9 4 6 団体、昨年度登録数は 2, 9 6 3 団体で、令和元年度と比較すると 1 7 団体の増となっております。

特徴といたしましては、定期利用団体、一般団体の登録数ともに減少傾向にありましたが、一般団体の登録数はコロナ禍の令和 2 年度を底として、その後増加傾向にございます。

3. 第 3 点目の公民館を利用している社会教育関係団体等の施設使用料免除への見解でございますが、公民館を含めた集会施設等の利用者負担の見直しにつきましては、現在、コロナ禍での外出行動の抑制などの影響により集会施設等の利用が低迷し、その後も十分な回復を見ていない現状を踏まえ、検討を凍結しております。

今後につきましては、市民の皆様の交流や活動を妨げることがないように配慮しながら、社会情勢等や施設利用の状況、費用対効果の視点などを踏まえて、考え方の整理を行うことを

予定しております。

4. 第4点目の公民館活動の形骸化への見解でございますが、公民館は、社会教育法や公民館条例に基づく社会教育施設であり、個人の要望のみならず、社会の要請である社会問題を市民自らが学び解決するための学習機関として、更に進化することが必要と認識しております。

5. 第5点目の中央エリアにおける複合化への見解でございますが、複合化に伴い、中央公民館の役割や目的が変わることはないと認識しております。今後もこれまでのサークル活動が維持できるよう努めてまいります。

## 市長答弁

2. 第2点目の 地域コミュニティの場についての見解 でございますが、市では、公共施設マネジメント推進計画において、小学校の更新時期を捉え 地域コミュニティの拠点となる施設である 仮称 地区交流センター を小学校に併設する形で複合化することを示しており、小平第十一小学校におきましても、小学校の更新を機に、学校敷地内に 仮称 地区交流センターを設置する予定です。

小学校は、小学生が歩いて通える距離に所在することから、その敷地内に 仮称 地区交流センターを設置することで、幅広い年代の方にとって、歩いて行ける距離に地域コミュニティ施設が所在する という状況が実現するものと認識しております。

仮称 地区交流センターの設置により、これまで以上に 地域コミュニティが活性化していくよう、今後、その運営等について、検討を進めてまいります。